

令和3年度次世代リーダー育成道場第10期生Aコース 留学体験記

こんにちは。私は2022年の3月から12月までオーストラリアのクイーンズランド州に留学していました。このレポートでは、私が留学先のオーストラリアでどのような生活をし、何を学んだのかについて書いていこうと思います。

〈日常生活〉

私はホームステイをしながら現地の学校に通いました。ホストファミリーは過去にも多数の留学生を受け入れたことのある方で、とても素晴らしい方々でした。ホストマザーと2人のホストシスター、そして離れたところに農場を持っており、普段はそこで生活しているホストファザーも週末になると交えて、自然の多い素敵なお宅で過ごさせていただきました。ホストマザーは、週末マーケット、ビーチ、レストランなど、たくさんの素敵なお場所に私を連れて行ってくださいました。年上のホストシスターは、長時間働き、また大学では看護を学んでいらっしゃる、私にとっての“学生の先輩”として、たくさんのお話をしてくださいました。年下のホストシスターとは、毎日一緒に学校へ歩いて登下校し、オーストラリアの高校生がどんなことをしているのか、また学校からの課題について、よくおしゃべりをしていました。ホストファザーは、農場経営者ということもあり、実に自然のことについて多くご存知でした。ファザーからは自然の大切さを主に語られ、良い勉強になりました。また、彼の育てた牛の肉は絶品で、ついついたくさん食べてしまいました。



(左からマザー、年下シスター、私、ファザー)



(左から年下シスター、隣人、年上シスターの彼氏、年上シスター)

〈学校生活〉

学校は、現地の高校生も通う、地域の公立高校に行きました。日本の高校と少し違い、幅広い選択科目が用意されていました。私は日本では学べないものを取りたいと思い、選択科目として法学、海洋学、ホスピタリティ（主にクッキング）を学び、必修科目としては、数学（一番上のクラスを取り、それは大体日本でいう数1、Aほど）、英語（スピーチや、シェイクスピア文学の分析）、保健体育、理科（中学レベル）を学びました。レベル的にはそこまで難しくはなく、きちんと話を聞いていれば最低でも成績はBは取れる内容でした。英語や授業内容がよく分からないときは周りの子に聞きながら、特に深刻な問題を抱えることなくやっていくことができました。学校の生徒たちの多くは優しく、フレンドリーだったため、友達も多くでき、親友と呼べるほど仲良くなった子もいました。週末や長期休みの際は友達とショッピングに行ったり、家に遊びに行ったりし、実をいうと、日本にいる時よりも娯楽を楽しんだように思えます。また私は留学生ということで、不安に思っていたことが多々ありましたが、先生方の手厚いサポートのおかげで、日々楽しく気軽に学校生活を送ることが出来ました。



（学校でできた友達たちと）

〈学んだこと〉

いつ、どんなときも100%正しい英語で話す人はいない、ということを私は留学を通して強く実感しました。当たり前と言われてしまえば当たり前で、どんな言語にも共通することですが、実際この意識があるだけで、英語でコミュニケーションをとるときの負担などはかなり減りますし、会話を心の底から楽しめると思いました。例えば文法的に正しくは“Mary and I went shopping.”というところを、若いネイティブの人はしばしば‘me and Mary went shopping’などのように言います。Mommy doesn't know というところを Mommy don't know という洋楽もあるくらいです。私たち日本人も、しばしばそのような文法的に正しくないことを言いますよね。例えば、ら抜き言葉やい抜き言葉です。ましてや日本語が母語でない外国人に対して、完璧に意味の通る日本語を話せ、とは思いませんよね。英語のネイティブスピーカーも同じように思っています。私はオーストラリアで、間違いを恐れずに英語をとりあえず話してみることの大切さを学びました。

また、私は人と話すことの楽しさを学びました。オーストラリアの人は皆さん本当にフレ

ンドリーで誰に対しても話しかけるような、優しく明るい方でいっぱいでした。店員さんがお客さんに話しかけて世間話するのはもちろん、ただ同じ列に並んでいた初対面の人がお喋りをするのも、普通にありました。私自身もたくさんの見知らぬ人に話かけられました。日本では、初対面の人には距離を置くのが一般的（そうでないと失礼に思われることもある）で、「コミュ障」という言葉がごく普通に使われるなど、どこか「静か」であることを美德とされているように感じます。（それももちろん日本の良いところで、それが日本人の礼儀やマナーの良さに繋がっているのは分かっています。）話すこと、人と喋って通じ合うことの楽しさを私はオーストラリアでたくさん感じました。ちょっとしたコミュニケーションで、その日一日が happy になることは私が身をもって証明できる、確かなことです。よく日本人は shy と言われていますが、shy であることは海外（少なくともオーストラリアでは）あまり良い風に捉えられないようです。自分を表現し相手に見せることは良いこと。日本でも、親しい人同士に限らない、コミュニケーションの楽しさに気づく人が増えたらいいなあ、と少し思いました。

〈最後に〉

思い立った瞬間に何か行動を起こすこと、「思い立ったが吉日」ということが何事においても最も大切です。私は中学生のころから洋楽や素敵な英語の先生方の影響で英語が好きで、いつか英語圏に行きたいと思っていました。高校入学してすぐ、次世代リーダー育成道場という都立高校生向けの、東京都から奨学金が支給される留学プロジェクトの募集用紙を教室で見つけ、後先考えずに担当の先生のもとへ行き、奨学生となるための試験を申し込んで、受けたことを覚えています。この後先を考えていなかった私の行動に今の私は本当に感謝しています。あのとき留学していなければ、今の私は何も変わっていない、ただただ留学への憧れをぼんやり描いているだけの学生だったでしょう。実際、この留学体験は私の進路に大きく影響を与えました。これが行っていなかったら、違う進路をなんとなく決めていたのかもしれないと思うと、こわいときえ思います。高校一年が終わった時、本来高校二年生になるはずだった年を留学に捧げ、帰国後にまだ進路選択に若干の余裕がある、高校二年生をしっかりとやれること、本当に良い決断をしたと我ながらに思います。経験したすべて、そして帰国後も多くの人と連絡を取り続けていることが今の私の支えとなり、宝となっています。これから私は、私の決断をサポートしてくださった全ての人に感謝し、自分の将来に真剣に向き合っていきたいと思います。

ここまで読んでくださりありがとうございました。

この簡単な私の留学体験記が、少しでも誰かのお役に立てることを願っております。